



(第1分科会の様子)

第49回長崎県人権教育研究大会を 東彼杵郡で開催しました

8月1日(金)、川棚町を会場に、第49回長崎県人権教育研究大会が開催されました。今年度は、東彼杵郡の東彼杵町、川棚町、波佐見町をはじめ、10者による共催でした。

また、一日のみの開催日程として四つの分科会を行いました。376名が参加し、学び合いました。

特別分科会では、『子どもの「学び」を保障するつながり』と題して、子どもの進路保障に対する考え方を話してくださいました。また、「誰もが住みたくなる町づくり」のパネルディスカッション、「松原の救護列車を伝える会」の皆さまによる朗読劇等、地域発の取り組みを語っていただきました。

第1～第3分科会では、県内各地での実践報告をもとに議論を深めました。県内各地で様々な人権教育実践がさらに広がることを願っています。来年度は、西彼杵郡で開催予定です。

人権教育通信



県人教HP：<https://chojinkyo.net/>

<参加者の感想より>

- 講演を聴きながら、教師として、子どもたちとどのように関わるかを考えた。大人たちが余裕を持ち、子どもたち一人一人と言葉を交わしながら信頼関係を築き、安心できる場所を作っていくたいと感じた。
- 自分自身に置き替えながらこれまでの子ども達との関わりなどを考えることができました。また、分科会での発表について、同席した方とお話しすることができ、教職員ではない方の視点も知れ、学びを深めることができました。ありがとうございました。
- 「無知が偏見を生み、偏見が差別を生む」本当にその通りだと思った。自分がしっかりとアンテナをはって意識しておかないと、「差別・人権」はすっと通りぬけていく。気づいたときに調べ、学習し、伝えていかないといけないと考えた。子どもに伝えて、思ったことを実践できるようにしていかないといけない。差別に気づくことが大事。

(第3分科会の様子)



第51回九州地区人権・同和教育夏期講座（佐賀県）

8月19日～20日、佐賀市文化会館を中心に開催され、九州各県から2000人以上が集まりました。1日の記念講演は、中央大学教授の池田賢市さんによる「子どもの権利を基盤とした人権教育のあり方」でした。人権教育を具体的に展開するために、「仲間づくり」「集団づくり」「おしゃべり」を軸に、子どもの生活背景を深く理解することの必要性が提起されました。

また、今集会では並行する形で特別講座Ⅰ・Ⅱが行われました。2日めは6会場に分かれて分科会でした。長崎県からは県立虹の原特別支援学校の坂本慶総さんが第2分科会で、県立長崎明誠高等学校の岩坪和美さんが第5分科会で実践報告をしてくださいました。

九州の他県の実践に学ぶことは、私たちにとって大事な示唆を得られる機会もあります。来年度は福岡市で開催の予定です。